

追 加 関 連 論 文

(バレルアルデヒド)

追 1 OECD SIDS Initial Assessment Report for SIAM 21(18-20, October, 2005), UNEP PUBLICATIONS.

バレルアルデヒドの細菌 (*S. typhimurium* TA98、TA100、TA102、TA104、TA1535、TA1537) を用いた復帰突然変異試験 (最高用量 10,000 µg/ml) において S9mix の有無にかかわらず陰性であった。マウスのリンパ腫 L5178Y を用いたマウスリンフォーマ tk 試験 (最高用量 - S9mix ; 150 µg/ml、+S9mix ; 500 µg/ml) において S9mix 存在下で陰性だったが、S9mix 非存在下で陽性であった。また、Swiss-Webster マウス (各群雌雄各 5 匹) の腹腔内投与による骨髄小核試験 (最高用量 266 mg/kg) においては陰性であった。

本物質 (バレルアルデヒド) と構造類似のプロピオナルアルデヒド及びイソブチルアルデヒドのデータより、選択的に生殖毒性や発生毒性を起こす懸念はないとしている。